

ノーチラス 真贋情報

今回は世界3大時計の1つであるパテックフィリップの「ノーチラス」の真贋についてご紹介します。

その前に、パテックフィリップといえばノーチラスを思い浮かべますが、その歴史はご存じでしょうか。このモデルが誕生したのは1976年、パテック初のスポーツウォッチとして発表されました。スポーツウォッチでありながらスーツにも似合う「ラグジュアリースポーツ」の祖とも言えるこの時計のデザインは、オーデマピゲのロイヤルオークのデザインも手がけた、ジェラルド・ジェンタによって考案されました。「ノーチラス」の由来は潜水艦ノーチラス号で、そのケースデザインは船の舷窓がモチーフになっています。

今回紹介するモデル「ノーチラス 5711/1A-010」は、2006年に発表されたモデルで、2021年頃まで販売されました。発売終了時の定価は約387万円でしたが、当時2次流通市場では3000万円以上で販売されるなど、かなり人気の高いモデルです（現在は1600万円前後）。またその人気の高さにより、基準外品も多く出回っております。



真贋情報

① ムーブメント

基準内



基準外



顔の全体ですが、鏡面仕上げやサテン仕上げはきれいに施されており判別は難しいです。

② ギャランティ



基準内は濃くシリアルが記載されていますが、基準外はかすれて見えます。また、カラトラバ十字のデザインも違います。

③ ロゴ



文字盤のボーダーデザイン上のロゴの位置は年代によって様々ですが、文字の輪郭がぼやけているものは基準外の可能性があります。

④ ムーブメント 1番つくりの粗が出やすいポイント

基準内



基準外



基準内はローターは全体的にきめ細かな彫り方がされており、ローター全体に施されている「コートドジュネーブ」の装飾模様も浅く艶が出るように彫られています。またカラトラバ十字はマル部分の形状が違っており、彫られている溝部分を比べると基準外の処理は荒いように感じます。

基準内



基準外



こちらはローター中央になります。円状の「ペルラージュ」の装飾模様の繊細さが違います。パテックフィリップに限らず、3大時計をはじめとした高級時計の装飾模様は上記のようなクオリティで仕上げられています。

基準内



基準外



こちらは「パテックフィリップ・シール」です。この刻印は腕時計が最高の品質であることを証明するパテックフィリップ独自のものになります。（2009年よりジュネーブ・シールからパテックフィリップ・シールに変更） デザインは似ていますが、基準内は深く彫られているのに対して、基準外はレーザーで削ったような浅い彫られ方をしています。

現在、真贋に必要な写真の枚数を限定して対応しております。すぐに査定結果をお出しさせていただくためにも、上記のポイントをおさえて鮮明なお写真を送っていただきますようご協力お願いいたします。